



I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査の対象学年及び調査を実施した学校・児童生徒数

	対象学年	実施学校数(校)	児童生徒数(人)
小学校	第6学年	17	945
中学校	第3学年	7	661
合計		24	1,606

※ 中学校1校が新型コロナウイルス感染症による学年閉鎖のため後日実施した。そのため、全体の調査結果には反映されていない。

3 調査の内容

(1) 教科に関する調査 (国語、算数・数学、理科)	<p>出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容はそれぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。</p> <p>① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能等</p> <p>② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等</p> <p>調査問題では、上記①と②を一体的に問う。</p>
(2) 質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒に対する質問紙調査～学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等 学校に対する質問紙調査～指導方法に関する取組、教育条件の整備の状況等

4 調査方式

悉皆調査(対象は小学校6年生、中学校3年生)

5 調査期日

令和4年4月19日(火)

6 調査結果の解釈等に関する留意事項

本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえる必要がある。

II 結果の概要

1 教科に関する結果の概要

- 小学校6年生は、国語・算数・理科ともに全道・全国平均を上回っています。
- 中学校3年生は、国語・算数・理科ともに全道・全国平均を上回っています。

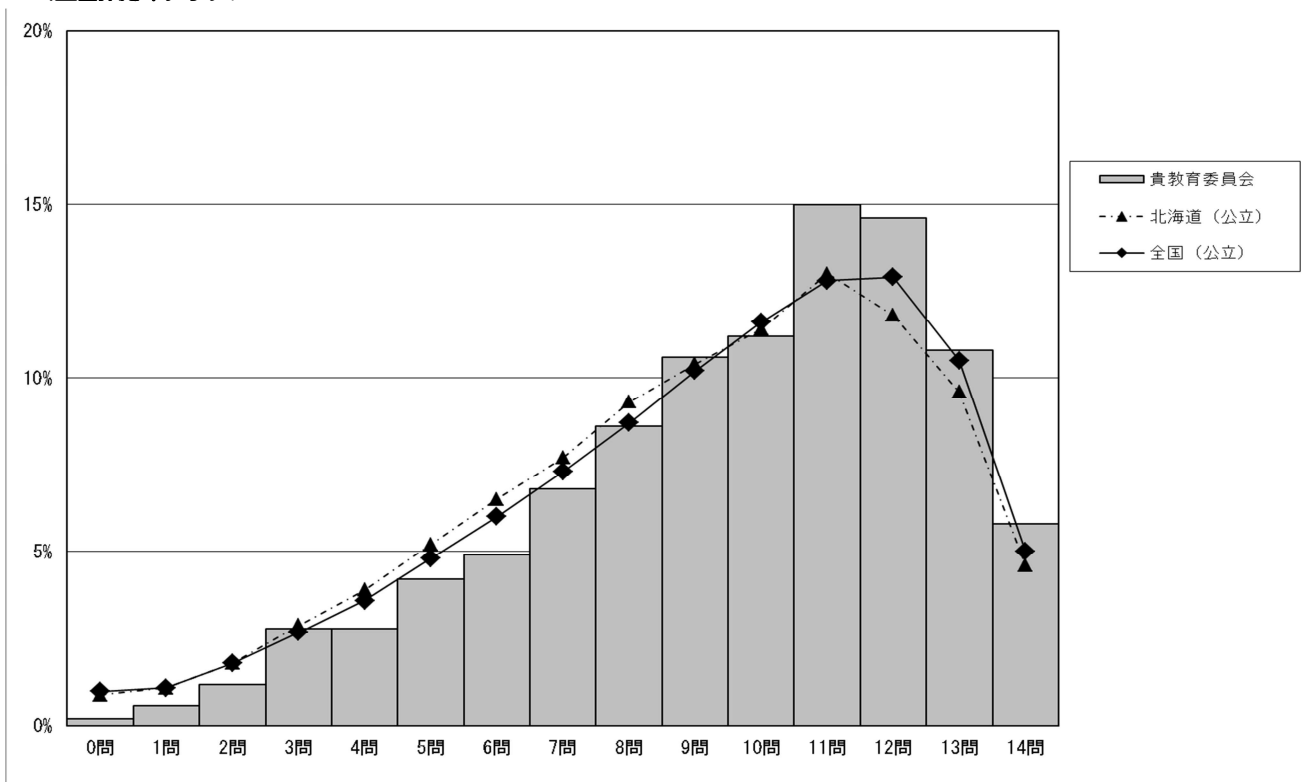
2 質問紙調査に関する結果の概要

- 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を上回り、大変落ち着いた状態にあると言えます。
- 「ICT機器を活用した授業をほぼ毎日行った」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回り(中学校は2年連続100%)、ICTを活用した授業が積極的に行われています。
- 「昨年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回り、中学校区で一貫した指導が行われており、令和5年度から全面实施される小中一貫教育に向けた取組が進んでいます。

Ⅲ 各教科の結果

1 小学校 「国語」

<正答数分布グラフ>



(横軸：正答数、縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	945	9.6 / 14	68.5
北海道 (公立)	34,309	9.0 / 14	64.4
全国 (公立)	965,308	9.2 / 14	65.6

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			貴教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)	
全体			14	68.5	64.4	65.6
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	5	74.1	68.7	69.0
		(2) 情報の扱い方に関する事項	0			
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	1	81.4	75.9	77.9
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	2	67.2	63.7	66.2
B 書くこと		2	47.7	47.4	48.5	
C 読むこと		4	69.2	65.2	66.6	
評価の観点	知識・技能	6	75.3	69.9	70.5	
	思考・判断・表現	8	63.3	60.4	62.0	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	8	74.6	70.6	71.8	
	短答式	3	70.3	63.5	63.6	
	記述式	3	50.3	48.8	51.3	

<結果>

- 平均正答率は68.5%で、北海道を4.1ポイント、全国を2.9ポイント上回っています。
- 学習指導要領の内容別平均正答率は、「書くこと」が0.8ポイント下回りましたが、他の5項目は全国平均を上回っています。中でも「言葉の特徴や使い方に関する事項」は5.1ポイント全国平均を上回りました。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「人物像や物語の全体像を具体的に想像することができる」

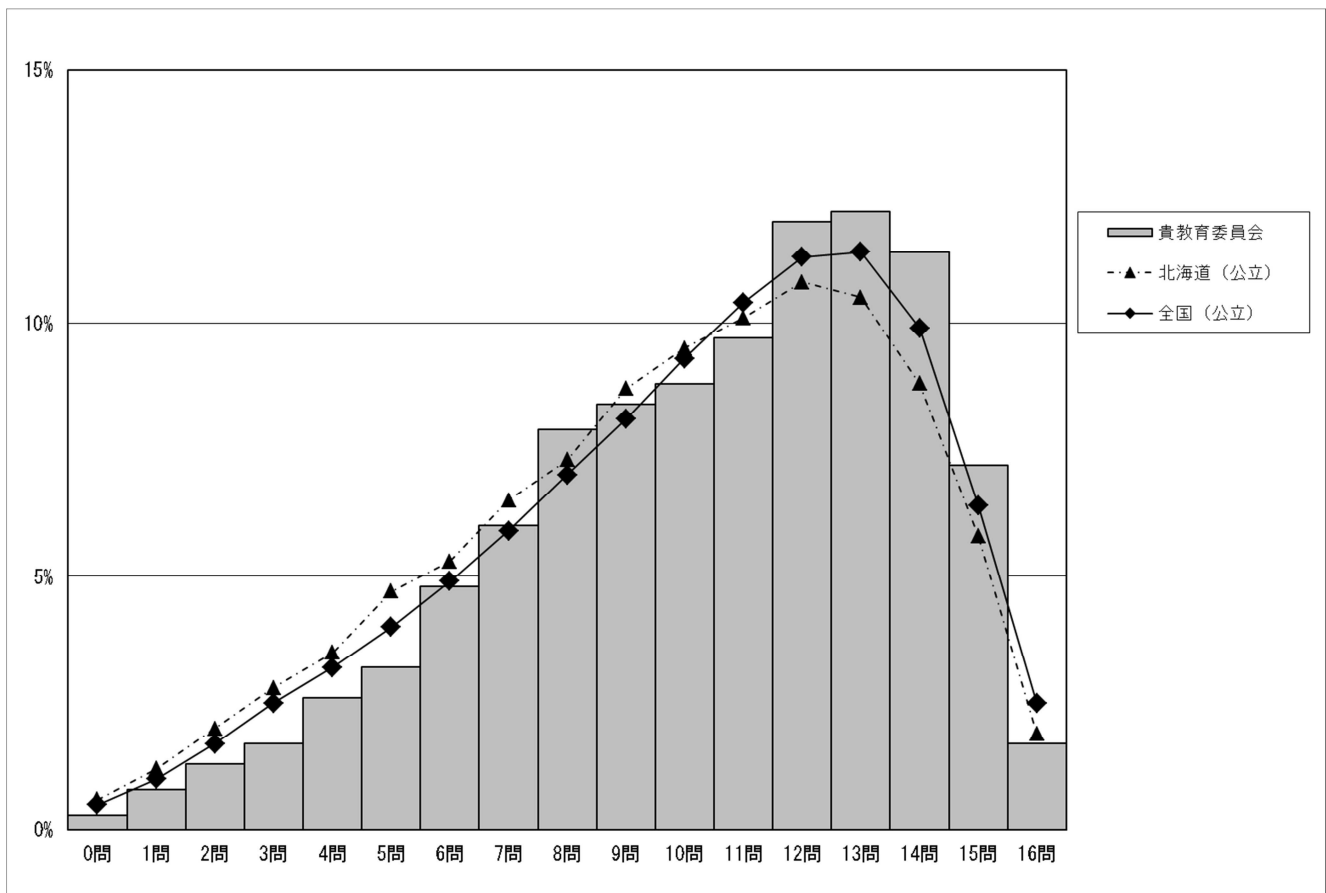
登場人物の相互関係や人物像などから物語の全体像を具体的に想像し、この物語から伝わってくることをまとめることができるようにすることが大切です。また、字数制限が設けられており、普段から条件作文等で繰り返し指導することが大切です。

- 「文章に対する感想や意見を伝え合い、よいところを見つけることができる」

文章のよいところを見つけるためには、どのような視点で読むのか明確にしたうえで、場面や心情などについての具体的な意見や感想を伝え合うようにすることが大切です。

2 小学校 「算数」

<正答数分布グラフ>



(横軸：正答数、縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	945	10.4 / 16	64.8
北海道(公立)	34,304	9.8 / 16	61.1
全国(公立)	965,431	10.1 / 16	63.2

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴教育委員会	北海道(公立)	全国(公立)
全体			64.8	61.1	63.2
学習指導要領の領域	A 数と計算	6	71.7	67.7	69.8
	B 図形	4	66.2	62.5	64.0
	C 測定	0			
	C 変化と関係	4	52.0	48.3	51.3
	D データの活用	3	68.8	66.1	68.7
評価の観点	知識・技能	9	69.3	66.3	68.2
	思考・判断・表現	7	58.9	54.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	6	53.7	50.6	51.8
	短答式	6	78.2	74.2	76.5
	記述式	4	61.1	57.0	60.2

<結果>

- 平均正答率は64.8%で、北海道を3.7ポイント上回り、全国を1.6ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域別の平均正答率は、全ての領域で全国平均を上回りました。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」

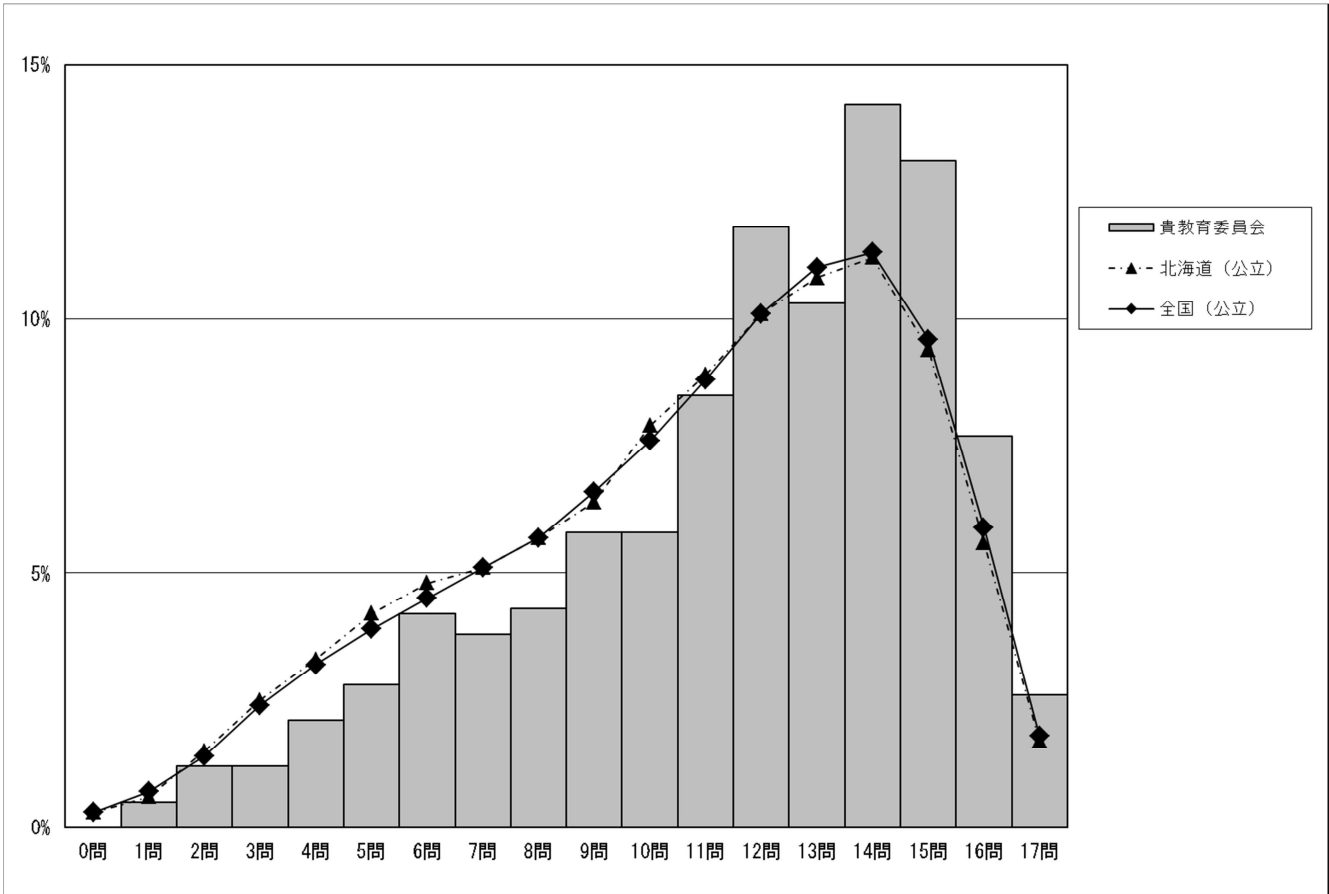
割合を理解させるために、日常の具体的な場面に対応させながら指導することが大切です。

- 「比例の関係をを用いて求め方や答えを式や言葉を用いて記述できる」

伴って変わる2つの数量の間にある比例の関係を見出し、その比例の関係をを用いて、未知の数量の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるようにすることが大切です。普段の授業の中で解き方等を説明させる場面を多く設けることが必要です。

3 小学校 「理科」

<正答数分布グラフ>



(横軸：正答数、縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	児童数	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	944	11.6 / 17	68.2
北海道 (公立)	34,310	10.7 / 17	62.9
全国 (公立)	965,761	10.8 / 17	63.3

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			貴教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)	
全体			17	68.2	62.9	63.3
学習指導要領の区分・領域	A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	56.5	51.2	51.6
		「粒子」を柱とする領域	5	66.8	60.4	60.4
	B区分	「生命」を柱とする領域	5	77.9	74.1	75.0
		「地球」を柱とする領域	5	68.8	64.1	64.6
評価の観点	知識・技能	6	69.0	63.2	62.5	
	思考・判断・表現	11	67.7	62.7	63.7	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	11	71.1	66.3	66.8	
	短答式	3	73.6	67.7	66.2	
	記述式	3	52.1	45.3	47.3	

<結果>

- 平均正答率は68.2%で、北海道を5.3ポイント上回り、全国を4.9ポイント上回っています。
- 学習指導要領の区分・領域別の平均正答率は、全ての領域で全国平均を上回りました。特にA区分は「エネルギー」で4.9ポイント、「粒子」で6.4ポイントと、全国平均を大きく上回りました。

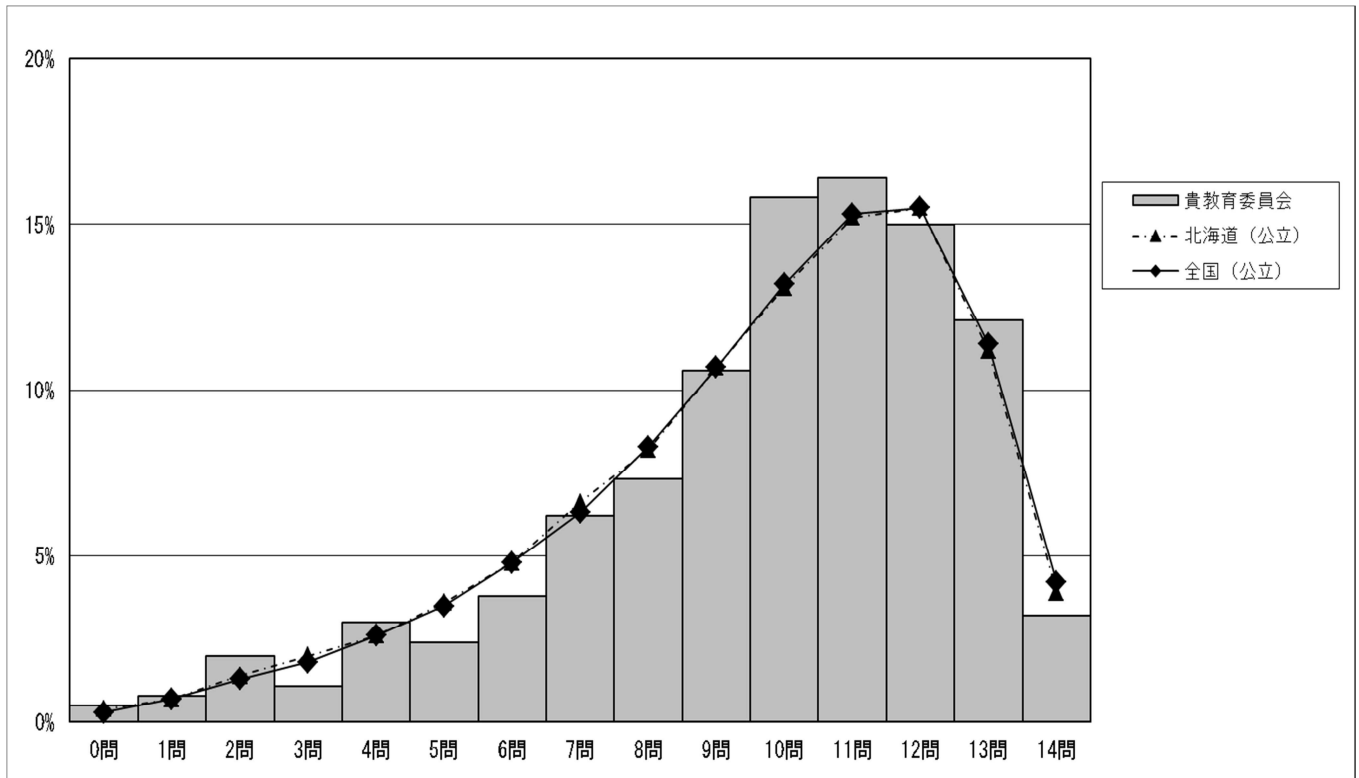
<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「水是水蒸気となって空気中に含まれていることを理解している」

鉄棒に付着していた水滴や氷に関する設問ですが、この問題のように生きて働く知識を習得するためには、主体的な問題解決を通して知識を習得させるだけでなく、得た知識を一般概念として理解させ、生活の中に生かせるようにしていくことが大切です。

4 中学校 「国語」

<正答数分布グラフ>



(横軸：正答数，縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	660	9.7 / 14	69.4
北海道(公立)	32,910	9.6 / 14	68.6
全国(公立)	891,820	9.7 / 14	69.0

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)			
			貴教育委員会	北海道(公立)	全国(公立)	
全体			14	69.4	68.6	69.0
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	6	72.4	72.1	72.2
		(2) 情報の扱い方に関する事項	1	48.8	44.5	46.5
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	70.5	69.3	70.2
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	64.2	63.5	63.9
		B 書くこと	1	48.8	44.5	46.5
C 読むこと		2	67.7	67.3	67.9	
評価の観点	知識・技能	10	69.4	68.5	69.0	
	思考・判断・表現	6	62.8	61.6	62.3	
	主体的に学習に取り組む態度	0				
問題形式	選択式	6	73.8	73.3	73.7	
	短答式	5	71.2	70.7	70.3	
	記述式	3	57.6	55.7	57.4	

<結果>

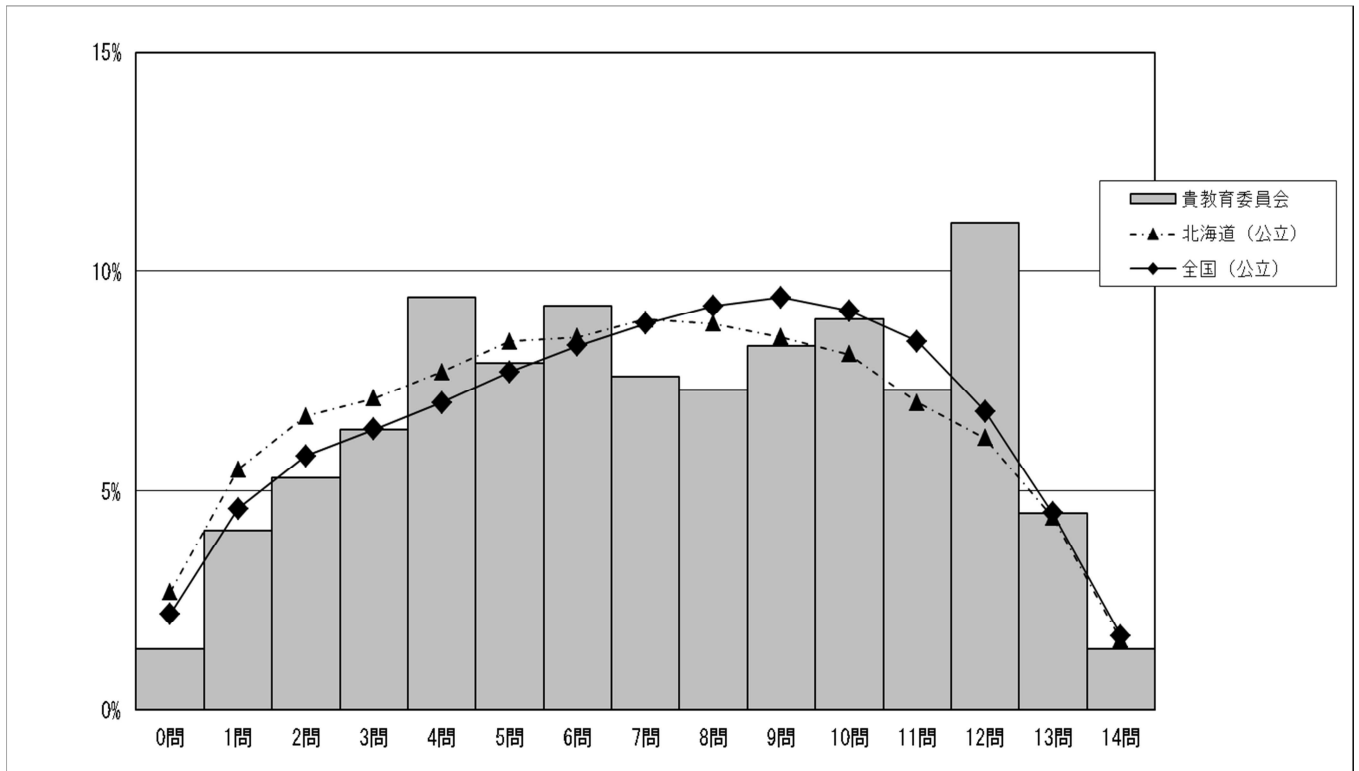
- 平均正答率は69.4%で、北海道を0.8ポイント、全国を0.4ポイント上回っています。
- 学習指導要領の内容別の平均正答率は、6項目中5項目で全国平均を上回っていますが、「読むこと」が0.2ポイント下回りました。

<正答率の低い設問及び学習指導の改善点>

- 「助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うことができる」
助動詞「そうだ」が伝聞の意味を表していることへの理解に課題があります。助動詞の働きや意味を理解させ、目的に応じて使うことができるようにすることが大切です。
- 「自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができる」
言葉の抑揚や強弱、間の取り方など、工夫して表現することに課題があります。伝えたい部分を明確にし、相手に分かりやすく伝わるような話し方を工夫することが大切です。

5 中学校 「数学」

＜正答数分布グラフ＞



(横軸：正答数，縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	660	7.3 / 14	52.3
北海道 (公立)	32,905	6.9 / 14	48.9
全国 (公立)	891,913	7.2 / 14	51.4

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
全体		14	52.3	48.9	51.4
学習指導要領の領域	A 数と式	5	56.5	52.0	57.4
	B 図形	3	48.3	43.0	43.6
	C 関数	3	46.0	42.3	43.6
	D データの活用	3	55.9	56.5	57.1
評価の観点	知識・技能	9	61.4	57.3	59.9
	思考・判断・表現	5	36.0	34.0	36.2
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	56.6	52.3	52.6
	短答式	5	65.3	61.2	65.7
	記述式	5	36.0	34.0	36.2

＜結果＞

- 平均正答率は52.3%で、北海道を3.4ポイント、全国を0.9ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域別の平均正答率は、「図形」と「関数」が全国平均を上回りましたが、「数と式」が0.9ポイント、「データ活用」が1.2ポイント全国平均を下回りました。

＜正答率の低い設問及び学習指導の改善点＞

■ 「素因数分解ができる」

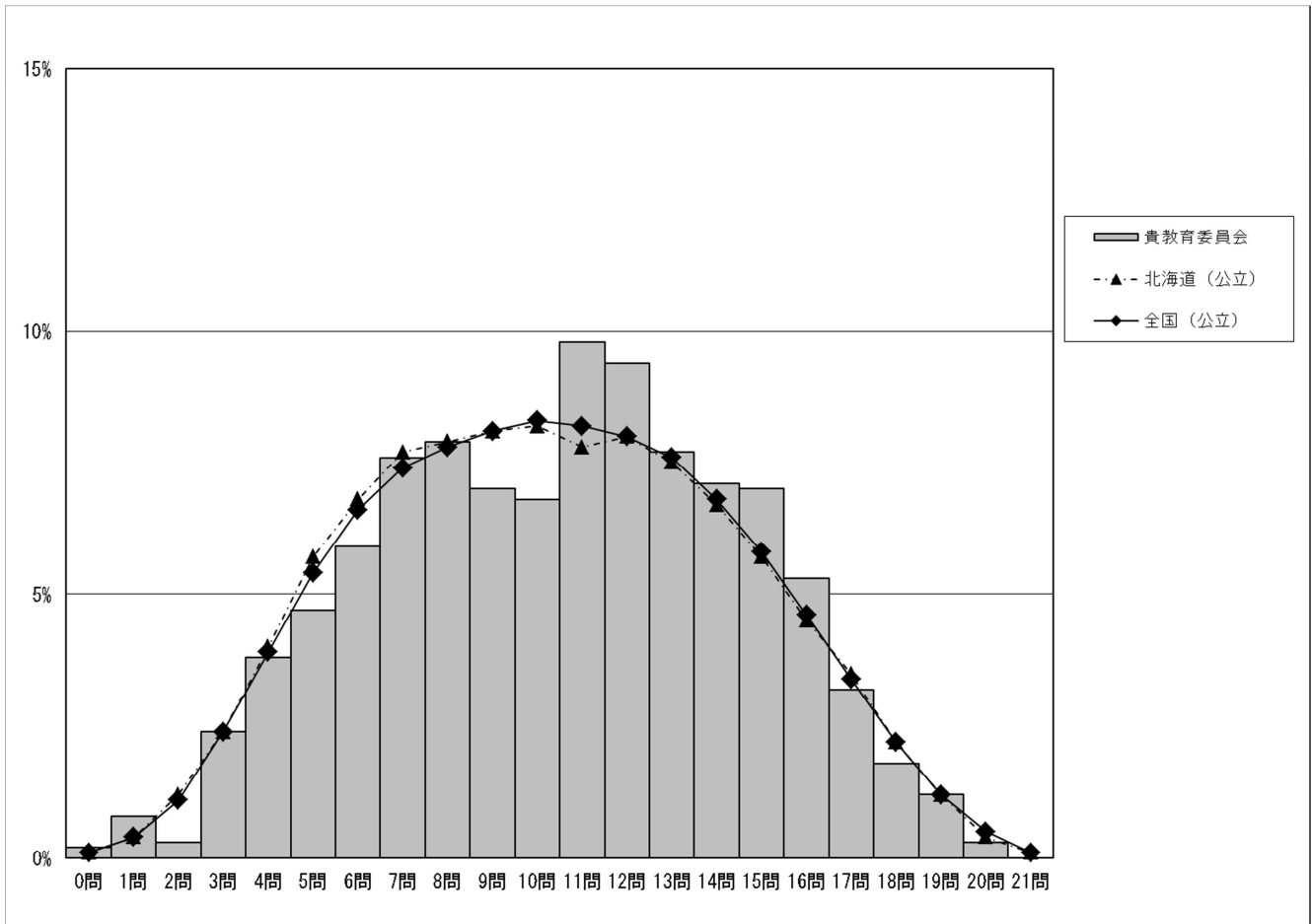
素数及び素因数分解の理解に課題があります。基礎的な問題であるので、理解の程度を再確認し、定着させるよう復習をしっかりと行うことが大切です。

■ 「データの傾向を的確にとらえ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」

この設問はア、イのどちらかを選択するものですが、どちらが正解というものではありません。データ(グラフ)の傾向をとらえ、選択した理由を数学的な表現を用いて説明するものです。データの傾向を読み解き、根拠を明確にして説明できるようにすることが大切です。

6 中学校 「理科」

＜正答数分布グラフ＞



(横軸：正答数、縦軸：割合) 棒グラフが江別市の分布グラフ ▲が北海道 ◆が全国(公立)です。

	生徒数	平均正答数	平均正答率 (%)
江別市教育委員会	661	10.5 / 21	50.2
北海道 (公立)	32,940	10.3 / 21	49.0
全国 (公立)	892,585	10.4 / 21	49.3

分類	区分	対象問題数 (問)	平均正答率 (%)		
			貴教育委員会	北海道 (公立)	全国 (公立)
全体			50.2	49.0	49.3
学習指導要領の領域	「エネルギー」を柱とする領域	6	43.7	41.9	41.9
	「粒子」を柱とする領域	5	51.6	51.2	50.9
	「生命」を柱とする領域	5	59.2	56.8	57.9
	「地球」を柱とする領域	6	43.5	43.6	44.3
評価の観点	知識・技能	7	48.3	46.2	46.1
	思考・判断・表現	14	51.2	50.4	51.0
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	15	50.4	49.5	49.6
	短答式	1	22.5	24.6	24.8
	記述式	5	55.1	52.4	53.5

＜結果＞

- 平均正答率は50.2%で、北海道を1.2ポイント、全国を0.9ポイント上回っています。
- 学習指導要領の領域別の平均正答率は、4領域中3領域で全国平均を上回りましたが、「地球」の領域が0.8ポイント全国平均を下回りました。

＜正答率の低い設問及び学習指導の改善点＞

■ 「地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップ、露頭のスケッチと関連付け、地層の傾きを分析して解釈できる」

地層が露出しているところの位置を表した地図や露頭のスケッチから地層の傾きの方向を捉えることに課題があります。地図、スケッチのどちらかに偏らず、地図とスケッチを関連付けて考察、分析できるようにすることが大切です。

IV 質問紙調査の結果

1 「児童・生徒質問紙」

(1) 生活習慣

① 朝食を「毎日食べている」、「どちらかといえば毎日食べている」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	93.6	-0.6	94.4	-0.8
中学校3年	92.1	0.6	91.9	0.2

② 「毎日同じくらいの時刻に寝ている」、「どちらかといえば同じくらいの時刻に寝ている」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	80.5	-1.6	81.5	-1.0
中学校3年	76.5	-2.0	79.9	-3.4

③ 「平日にテレビゲーム(パソコン・スマートフォン等を含む)を2時間以上している」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	55.3	2.7	50.2	5.1
中学校3年	50.9	-8.5	50.3	0.6

朝食摂取について、小学校6年生は昨年度及び全国平均を下回りました。中学校3年生は昨年度を上回り、全国平均とほぼ同様になりました。

就寝時刻について、小学校6年生、中学校3年生ともに昨年度及び全国平均をやや下回りました。子どもの生活リズムの向上のため、学校、家庭、地域等が連携して改善に向けた取組をさらに充実させる必要があります。

1日2時間以上ゲームをする割合は、小学校6年生は昨年度及び全国平均を上回りました。中学校3年生は昨年度を大きく下回り、全国平均とほぼ同様になりました。市教委が毎年実施している「スマホ等の使用に関するアンケート調査」から、小学校6年生のスマートフォン所持率が令和2年度から令和3年度にかけて8.2%上昇し、40%以上の児童が所持していることが要因の一つとして挙げられます。引き続き家庭との連携強化を図り、スマートフォン等の利用についてのルールを理解と生活の見直しを行っていく必要があります。

(2) 学習習慣

① 家で、自分で「計画を立てて勉強している」、「どちらかといえば、している」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	81.2	-2.7	71.1	10.1
中学校3年	57.4	-4.8	58.5	-1.1

② 平日に、学校の授業以外に1時間以上勉強する(学習塾、家庭教師、インターネットでの学習の時間も含む)

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	70.6	-0.5	59.4	11.2
中学校3年	62.4	-7.9	69.5	-7.1

自分で計画を立てて勉強している割合、平日に学校の授業以外に1時間以上勉強する割合は、小学校6年生は全国平均を大きく上回りましたが、中学校3年生は全国平均を下回りました。昨年度と比べると小学校6年生、中学校3年生ともに低くなっており、計画的に家庭学習が行われるよう保護者への呼びかけや児童生徒への指導を工夫していく必要があります。

(3) 自己肯定感

① 自分には、よいところが「あると思う」、「どちらかといえばあると思う」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	77.0	3.9	79.3	-2.3
中学校3年	78.0	5.5	78.5	-0.5

② 将来の夢や目標を「もっている」、「どちらかといえば、もっている」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	77.0	-2.2	79.8	-2.8
中学校3年	66.0	0.5	67.3	-1.3

自己肯定感、将来の目標等について、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均を下回りました。自己肯定感は、小学校6年生、中学校3年生ともに昨年度より高くなりました。

市内の小・中学校では、一人一人のよさや可能性を見つけて伝えたり、集団における所属感や成就感を高めたりする取組を進めています。今後も令和5年から全市で導入される小中一貫教育の推進やキャリアパスポートの活用を図るなど、自己肯定感や自己有用感の醸成に継続して取り組んでいく必要があります。

(4) 主体的・対話的で深い学びの視点による学習への取り組み

① 学級で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている「そう思う」、「どちらかといえば、そう思う」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	82.4	1.4	80.1	2.3
中学校3年	77.2	2.3	78.7	-1.5

② 授業で課題の解決に向けて、自ら考え、自分から「取り組んでいる」、「どちらかといえば、取り組んでいる」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	77.8	-3.9	77.3	0.5
中学校3年	79.3	0.9	79.2	0.1

③ 授業で自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを「工夫して発表している」、「どちらかといえば、工夫して発表している」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	60.9	-4.8	65.4	-4.5
中学校3年	58.9	4.5	63.3	-4.4

話し合い活動の中で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる割合は、小学校6年生では昨年度及び全国平均を上回り、中学校3年生では昨年度を上回りましたが、全国平均を下回りました。

課題解決に向け自ら考え、取り組んでいる割合は小学校6年生では昨年度を下回りましたが、中学校3年生では上回り、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均並みとなりました。

話の組み立てを工夫して発表している割合は、小学校6年生では昨年度及び全国平均を下回り、中学校3年生では昨年度を上回りましたが全国平均を下回りました。

小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から全面实施された学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められています。対話的な学習の一つである「発表の工夫」に関して、小学校6年生、中学校3年生ともに全国平均より低くなっており、今後も引き続き授業の工夫・改善を図っていく必要があります。

(5) 社会に対する興味・関心

① 新聞をよく読んでいる。

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	5.3	-1.1	4.8	0.5
中学校3年	3.0	-2.4	3.0	0

② 今住んでいる地域の行事に「参加している」、「どちらかといえば、参加している」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	43.7	-9.9	52.7	-9.0
中学校3年	32.6	-0.5	40.0	-7.4

③ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	49.5	-3.8	51.3	-1.8
中学校3年	41.2	3.2	40.7	0.5

「新聞をよく読んでいる」割合は、小学校6年生、中学校3年生ともに昨年度を下回りました。インターネットの普及及び新聞をとっていない家庭の増加がその要因として考えられます。

「地域行事への参加」については、小学校6年生、中学校3年生ともに昨年度及び全国平均を下回りました。新型コロナウイルス感染症の影響により、地域行事の中止や参加自粛が影響していると考えられます。

「地域や社会をよくするためにすべきことを考える」割合は小学校 6 年生では昨年度及び全国平均を下回りましたが、中学校 3 年生では昨年度及び全国平均を上回りました。特に中学校 3 年生は、令和元年度から 10 ポイント以上高くなり、地域に対する意識の高まりがみられます。

今後も地域の行事に参加すること等を通して自分の住んでいる地域に関心をもたせ、社会に開かれた教育課程の実現を図っていく必要があります。

(6) 思いやり

① 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	90.5	1.5	83.9	6.6
中学校3年	86.6	0.3	82.6	4.0

② 人が困っているとき進んで助けている。「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	88.9	0.5	88.9	0
中学校3年	86.8	0.3	88.4	-1.6

③ 人の役に立つ人間になりたい「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	94.6	-0.7	95.1	-0.5
中学校3年	94.6	0.2	95.0	-0.4

「いじめは、どんな理由があってもいけないと思う」割合は、小学校 6 年生、中学校 3 年生ともに昨年度及び全国平均を上回りました。今後も各学校で実施されているいじめ根絶に向けたアンケートや児童生徒主体の集会活動等を継続するとともに、早期発見・早期解決のため、いじめの積極的認知を進めていく必要があります。

「人が困っているとき進んで助ける」割合は、小学校 6 年生、中学校 3 年生ともに昨年度並みですが、中学校 3 年生は全校平均を下回りました。

「人の役に立つ人間になりたい」割合は、小学校 6 年生、中学校 3 年生ともに昨年度及び全国平均並みになっています。

人への思いやりや規範意識を育むため、特別の教科道徳を中心に、学校の教育活動全体で道徳教育を推進していくことが大切です。

(7) 読書習慣

① 学校の授業時間以外に、「平日、1日30分以上読書をする」(教科書、漫画や雑誌を除く)

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	38.0	-2.0	36.4	1.6
中学校3年	26.4	-2.8	27.3	-0.9

平日に 30 分以上読書する割合は、小学校 6 年生では全国平均を上回りましたが昨年度を下回りました。中学校 3 年生では昨年度及び全国平均を下回りました。

各学校では、朝読書の実施やボランティアによる読み聞かせ、市の情報図書館司書の巡回等による図書室の整備など読書環境の充実が図られています。児童生徒の読書習慣の定着が図られるよう今後も継続していく必要があります。

2 「学校質問紙」

(1) 学習規律

① 授業中の私語が少なく、落ち着いていると「思う」「どちらかといえばそう思う」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	94.1	5.9	87.2	6.9
中学校3年	100.0	0.0	95.6	4.4

「授業中の私語が少なく、落ち着いている」割合は、小学校 6 年生、中学校 3 年生ともに全国平均を上回りました。小学校は、昨年度を 5.9 ポイント上回り、中学校は昨年度同様 100%となりました。

各学校においては、姿勢や態度、聞き方や話し方、授業開始のチャイムを守るなどの学習規律が丁寧に指導されており、江別市の小・中学校は落ち着いた状態にあると言えます。

(2) 家庭学習

① 保護者に対して、家庭学習を促すよう働きかけを「よく行った」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	94.1	—	37.4	56.7
中学校3年	42.9	—	26.2	16.7

② 家庭学習の取組として、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた(教科共通)「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	100.0	0.0	97.8	2.2
中学校3年	100.0	0.0	96.9	3.1

家庭学習の取組として、「保護者に対して家庭学習を促すよう働きかけた」割合は、小学校、中学校ともに全国平均を大きく上回っています。「家庭での学習方法を、具体例を挙げながら教えた」割合は、小学校、中学校ともに昨年同様100%となりました。

江別市の各小中学校では、学習内容を確実に定着させるために、家庭と連携を図りながら学習方法を具体的に指導し、家庭における学習の習慣化を図る取組が推進されています。

(3) ICTを活用した授業

① ICT機器を活用した授業をほぼ毎日行った

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	94.1	-5.9	67.2	26.9
中学校3年	100.0	0.0	68.4	31.6

パソコンやプロジェクター、電子黒板、実物投影機などを活用した授業の実施状況は、小学校、中学校ともに全国平均を上回っています。

江別市ではICTを活用した学習の推進を図るため、令和2年度から多機能型大型ディスプレイ(電子黒板)をはじめ、タブレット端末の全学年配置、各学校のネット環境の改善等を進めてきました。各小中学校では、児童生徒の学習意欲を高め、分かりやすい授業が行われるよう、ICTを活用した授業を積極的に推進しています。

(4) 学校運営

① 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立を「よく行った」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	76.5	11.8	29.3	47.2
中学校3年	57.1	-5.4	28.8	28.3

教育課程を編成・実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルの確立を行っている割合は、小学校、中学校ともに、全国平均を上回っています。

江別市の小中学校では、全国学力・学習状況調査や江別市学力調査(NRT)等の結果を分析し、児童生徒の実態に合った教育課程を編成しており、「計画(Plan)－実行(Do)－評価(Check)－改善(Action)」の一連のサイクルによって学校改善及び授業改善(カリキュラム・マネジメント)を図る取組を継続して行っています。

(5) 全国学力・学習状況調査の活用

① 令和3年度の全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するための活用を「よく行った」「行った」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	100.0	0.0	95.9	4.1
中学校3年	100.0	0.0	92.7	7.3

全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した割合は、小学校、中学校ともに昨年同様100%となり全国平均を上回っています。江別市の小中学校では、学校が一つのチームとして学力向上の取組を継続して行っています。

(6) 小学校教育と中学校教育の連携

① 令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	23.5	0.0	11.9	11.6
中学校3年	42.9	5.4	15.1	27.8

令和3年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣の小中学校と成果や課題を共有した割合は、小学校、中学校ともに全国平均を上回っています。江別市の小中学校では、令和5年度から全面実施する小中一貫教育に向け、各中学校区内での小中交流を計画的に行っています。その中で、学力における共通課題等を明確にし、子どもたちの学力の向上に向けての取組が進められています。

(7) 家庭や地域との連携

① 前年度、保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習、部活動支援、学校行事の運営などの活動に「よく参加している」「参加している」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	94.2	-5.8	94.6	-0.4
中学校3年	71.5	-28.5	77.5	-6.0

② ①の保護者や地域の人との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果があった「そう思う」「どちらかといえばそう思う」

	令和4年度結果(%)	令和3年度比	全国平均(%)	全国比
小学校6年	100.0	0.0	93.7	6.3
中学校3年	100.0	0.0	86.5	13.5

「保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習、部活動支援、学校行事の運営などの活動に参加している」割合は、小学校、中学校ともに全国平均及び昨年度を下回りました。しかし、保護者や地域の人との協働による取組が「学校の教育水準の向上に効果があった」割合は、小学校、中学校ともに100%で、全国平均を大きく上回っています。江別市の小中学校では、「特色のある学校づくり」として、地域の特性を踏まえて取組実践項目を掲げ、教育関係者、地域・保護者が協力し合い、教育活動の充実を図る取組を推進しています。また、江別市の全小中学校に、地域に住んでいる退職教員など、教員免許を持つ学習サポート教員を配置し、複数の教員が指導するティーム・ティーチングや長期休業中・放課後に補足的な学習を行い、基礎学力の定着に大きな役割を果たしています。

参考引用文献

令和4年度 全国学力・学習状況調査 解説資料 (国立教育政策研究所教育課程研究センター)